

～ 学校経営方針 ～

学校経営理念・・・「志」の共有

- 一、私たちの志は、生徒の夢や目標・保護者の願い・地域の思いを具体化していくことであり、私たちの教育活動は、思い出づくり、夢づくり、そして人づくりである。これは、私たちの存在意義である。
- 一、志を実現するために、私たちはベクトルを共有し、互いを認め合い尊重し、協働して職務を遂行する。
- 一、職務を遂行するにあたっての私たちの指針は、常に生徒・保護者・地域にとって、最善とは何かを考え、判断し、行動することである。

校訓・・・「豊かに・たくましく・賢く」

学校は、生徒に、21世紀をたくましく「生きる力」を身に付けさせなければならない。そのためには、生徒一人ひとりに、「豊かな心」「健やかな体」「確かな学力」、をバランス良く育てていくことが重要である。本校においては、四万十町教育基本理念に則り、故郷を愛し、誇りを持ち、将来において地域に貢献していくことができる、「たくましく人間性豊かな人づくり」を目指す。

学校教育目標

「互いを尊重し、心豊かで、たくましく、共に学びあい、高め合える生徒の育成」

～ 自立・協働・貢献 ～

1 めざす生徒像 【未来に向かって、自らの進路を切り拓く生徒】

- (1) 自ら考え、学び、行動できる生徒
- (2) 互いに認め合い、共に学び合い高め合える生徒
- (3) 健康で、たくましく、自立できる生徒
- (4) 故郷に誇りを持ち、故郷に貢献できる生徒

2 めざす教職員像 【志を共有し、互いを認め合い尊重し、協働して職務を遂行する教職員】

- (1) 教職員としての誇りと責任を自覚し、常に研鑽に励み、学び続ける教師
- (2) 他と協調しながら、教育目標の具現化に組織的に取り組む教師
- (3) 生徒の心に寄り添い、生徒・保護者・地域に信頼される教師

3 めざす学校像 【生徒の夢・保護者の願い・地域の思いを具体化できる学校】

- (1) 生徒一人ひとりが大切にされる学校
- (2) 生徒が学ぶ喜びを感じ、夢や希望が持てる学校
- (3) 家庭や地域とともに、豊かな心を育成する学校

4 教育実践内容 ★本校が育てたい力・・・「自ら考え・判断し・行動できる、社会を生き抜く力」

「生きる力」を知・徳・体にわたり育むために、「何のために学ぶのか」という各教科等を学ぶ意義を共有しながら、以下に示す内容に取り組む。

- ★何を理解しているか、何ができるか…生きて働く知識・技能の習得
- ★理解していること・できることをどう使うか…未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成
- ★どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか・・・学びに向かう力・人間性・社会性

教育実践内容

- (1) 基本的な生活習慣の確立：「早ね・早おき・朝ごはん運動と身辺自立を目指す」
- (2) 基礎基本の定着と学力の向上：「各教科の知識・技能を習得させるとともに言語活動を充実させて思考力・判断力・表現力等を育成する」
- (3) 道徳教育の推進：「生命を大切にすする心や他人を思いやる心、善悪の判断などの規範意識等を身に付ける」
- (4) 健康の増進と体力の向上：「生涯にわたり健康の保持増進とスポーツに親しむ生徒の育成」
- (5) 小中連携教育の推進：「基礎学力の定着をめざし、小から中へのスムーズな移行を目指す」
- (6) 中高一貫教育の推進：「中・高の6年間を通して、地域の子どもたちを見守り、育てる」
- (7) 保護者・地域との連携を生かした地域ぐるみ教育の推進：「地域人材の活用・体験活動の実施」
- (8) 命の教育：「避難訓練、安全指導を計画的に実施し、防災や安全についての意識と実践力を高める」
- (9) 生徒指導の充実：「自己指導能力を育成する生徒指導（絆づくり）の推進」
- (10) 人権教育の推進：「人権尊重の社会づくりに主体的に行動する力の育成」
- (11) 特別支援教育の推進：「生徒個々の状況に応じた支援の充実。特別支援教育を視点とした教育活動」
- (12) キャリア教育の推進：「キャリアカウンセリングによる学びと実生活・実社会の連結「轍」を図る」
- (13) 総合的な学習の時間の充実：「ふるさと学習・福祉活動・体験活動の実施」
- (14) ICT活用の推進：「ICT活用による効果的な学びを推進する」

5 教育実践重点項目について

- (1) **知**：基礎学力の定着と学力の向上 **※合言葉は「全員を伸ばせる授業」**

①十和中学校授業スタンダードの実践

- (ア) 十和中学校授業スタンダード（主体的・対話的で深い学びの視点・キャリア教育の視点・ユニバーサルデザインの視点・生徒指導・人権・仲間づくりの視点に基づく）による、授業を実施し、全ての生徒がわかる、できる、全員を伸ばせる授業を組織的に実践する。
- (イ) 各教科の「見方・考え方」を働かせた教科指導の充実。
- (ウ) 思考の過程（家庭学習に繋がる）が残る板書。見やすい構造化された板書。
- (エ) 単元計画の明確化による基礎基本の定着、及び課題解決力育成。
- (オ) 十和中「学びの作法」の徹底。

② 総合的な学習の時間

- (ア) 企業活動を通じて、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的・創造的な学びを重点的に実践する。
- (イ) 教員全員で授業にあたることにより、効果的な授業と適正な評価を実施する。
- (ウ) 協働の川プロジェクトの取組を通して、地域の教育力を活用し、調べ学習や体験活動に取り組む。

- ③ 授業とリンク（予習・復習）した家庭学習の習慣を身につけさせる。まとめと振り返りにより、本時の授業や次時の授業について生徒へのフィードバックを行い、理解が不十分なところを明確にし、家庭学習につなげる。
- ④ 学習意欲の喚起につながる、効果的な体験活動および外部の人材の活用。
- ⑤ 教科間連携の取組を通して、授業力向上及び生徒の学力の向上を図る。
- ⑥ ICTの効果的な活用。

(2) **徳**：豊かな心の育成 ※合言葉は、「心が育たないと学力はつかない」

- ①心を耕すことを重視する→自尊感情と他尊感情を育成する。
 - (ア) 道徳の授業を要とし、道徳性の育成（道徳的な心情・判断力・実践意欲と態度）を図る。
 - (イ) 道徳の教科の研究と実践…質の高い多様な道徳授業「読み物教材の登場人物への自我関与の学習・問題解決学習やディスカッション、道徳的行為に関する体験的な学習」を実施する。
 - (ウ) 全教員で授業にあたることにより、効果的な授業と適正な評価（個々の意識の変容の見取り）を実施する。
- ② 自己指導能力を育成するために、生徒指導の3つの機能（自己存在感・共感的人間関係・自己決定）をすべての教育活動において展開する。
- ③ 組織的な生徒指導を目指し、指示伝達の一本化を図り一貫性のある生活指導体制を確立する。
- ④ 「寄り添い、認め、励ます」姿勢で生徒を見つめ、好ましい人間関係をもとに指導にあたる。良さを発見し、細やかな愛情をもって指導する。
- ⑤ 基本的な生活習慣の確立と学校生活の秩序（はじめ）を保つルールを身につけさせる。
- ⑥ 生徒個々の状況に応じた支援の充実を図るため、特別支援教育を視点（UD）とした教育活動を推進する。
- ⑦ スクールカウンセラー・SSWとの連携を図り、教育相談活動を充実する。

(3) **体**：健康の保持増進と体力の向上 ※合言葉は「みんなで」

- ① 健康・食教育を充実し、心身の健康の保持増進・体力の向上を図る。
- ② 生徒の健康に関する取組を強化する。
- ③ 生徒の主体性を育む部活動運営や、健康増進・体力向上のために学校全体の取組を研究する。
- ④ 運動部活動において、生涯にわたってスポーツに親しむ態度を育て健康の保持増進や体力の向上を図る。
- ⑤ 保健体育の授業改善に努める。

(4) **連**：連携・協働した教育活動の推進 ※合言葉は「子どもは十和の宝」

- ① 情報を共有することにより、生徒理解を図り、生徒の健全な育成を目指す。
- ② 生徒の学習課題等を共有し改善を行うことにより、基礎学力の定着と学力向上を目指す。
- ③ 異年齢の子どもたちが一緒に遊び、学ぶことにより、認めあい励ましあう児童生徒を育成する。
- ④ 交流授業・交流活動を通して、自尊感情・他尊感情・コミュニケーション能力を育む。
- ⑤ 小学校から中学校へスムーズな移行を目指す。生活や学習において生じる中1ギャップの解消を図る。
- ⑥ 地域の力を確認しあう（外部人材の活用）とともに、地域とともにある学校づくりを進める。
- ⑦ 大正・十和地域中高一貫教育推進協議会による取組を推進する。
- ⑧ 学校運営協議会の充実により、地域の教育力を生かした効果的な体験活動等に取り組む。

6 働き方改革と不祥事防止の推進

- ワークライフバランスを確保した働き方改革の推進。
- 教育公務員としての自覚と高い規範意識を持って業務の遂行に取り組み、お互いに相談し合える風通しの良い職場環境を目指す。